



LDAP ディレクトリの設定

ディレクトリの設定は、次の3つの関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が [Cisco Unified Communications Manager の管理] の [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP ディレクトリの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP ディレクトリの検索 \(P.15-2\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.15-3\)](#)
- [関連項目 \(P.15-8\)](#)
- [LDAP ディレクトリの削除 \(P.15-7\)](#)

詳細については、[P.15-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

始める前に

LDAP ディレクトリの同期化を行うには、その前に Cisco DirSync サービスをアクティブにしておく必要があります。サービスをアクティブにする方法については、『*Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

LDAP ディレクトリの検索

LDAP ディレクトリの設定を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、LDAP ディレクトリの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、LDAP ディレクトリの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ] の順に選択します。

[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[ステップ 3](#)に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウンリストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

すべてのレコード、または一致したレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注)

該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注)

リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.15-8 の「関連項目」を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページデータベースとのユーザデータ同期化に使用する LDAP ディレクトリの情報を追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ] の順に選択します。

[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- LDAP ディレクトリに関する新しい情報を追加するには、対象となるディレクトリを見つけて (P.15-2 の「LDAP ディレクトリの検索」を参照)、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- LDAP ディレクトリに関する既存の情報を更新するには、対象となるディレクトリを見つけて (P.15-2 の「LDAP ディレクトリの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 15-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

新しい LDAP ディレクトリが Cisco Unified Communications Manager データベースに追加されます。または、既存のディレクトリが更新されます。

追加情報

P.15-8 の「関連項目」を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定値

表 15-1 では、LDAP ディレクトリの設定値について説明します。関連する手順については、P.15-8 の「関連項目」を参照してください。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値



フィールド	説明
[LDAP ディレクトリ情報 (LDAP Directory Information)]	
[LDAP 設定名]	LDAP ディレクトリの固有の名前を入力します (40 文字まで)。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP Manager のユーザ ID を入力します (128 文字まで)。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP Manager のパスワードを入力します (128 文字まで)。
[パスワードの確認 (Confirm Password)、半角英数のみ]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	すべての LDAP ユーザが存在するロケーションを入力します (256 文字まで)。このロケーションは、コンテナまたはディレクトリとして機能します。この情報は、お客様側の構成によって異なります。
[LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)]	
[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)]	この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified Communications Manager データベースのデータと 1 回のみ同期する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[再同期の実行間隔 (Perform a Re-sync Every)]	<p>この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified Communications Manager データベースのデータと定期的に同期する場合は、これらのフィールドを使用します。</p> <p>左側のフィールドには、数値を入力します。ドロップダウン リスト ボックスでは、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [時] • [日] • [週] • [月] <p> (注) このフィールドがアクティブのままになるのは、[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)] チェックボックスをオフにした場合のみです。</p>
[次の再同期時刻 (Next Re-sync Time) (YYYY-MM-DD hh:mm)]	Cisco Unified Communications Manager ディレクトリのデータをこの LDAP ディレクトリと次回に同期する時刻を指定します。時刻は 24 時間制で指定してください。たとえば、午後 1 時は 13:00 と同じです。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明	
[同期対象のユーザフィールド (User Fields To Be Synchronized)]		
[Cisco Unified CM のユーザフィールド]	[LDAP ユーザフィールド]	
[ユーザ ID (User ID)]	[sAMAccountName] または [uid]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザデータと同期されます。
[ミドルネーム (Middle name)]	(ドロップダウン リストボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザデータと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [middleName] • [initials]
[マネージャ ID (Manager ID)]	[manager]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザデータと同期されます。
[電話番号 (Phone Number)]	(ドロップダウン リストボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザデータと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [telephoneNumber] • [ipPhone]
[名 (First Name)]	[givenName]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザデータと同期されます。
[姓 (Last Name)]	[sn]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザデータと同期されます。
[部署名 (Department)]	[department] または departmentnumber	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザデータと同期されます。
[メール ID (Mail ID)]	(ドロップダウン リストボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザデータと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [mail] • [sAMAccountName] • [uid]

■ LDAP ディレクトリの設定値

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]	
[サーバのホスト名あるいは IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]	この LDAP ディレクトリのデータが配置されているサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは、636 です。</p>
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) LDAP over SSL が必要な場合は、企業ディレクトリの SSL 証明書を Cisco Unified Communications Manager にロードしておく必要があります。『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』の「セキュリティ」に、証明書のアップロード手順についての説明があります。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加]	行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。

LDAP ディレクトリの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの LDAP ディレクトリを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

LDAP ディレクトリを削除すると、Cisco Unified Communications Manager はそのディレクトリに関する情報をデータベースから削除します。



(注)

該当する LDAP ディレクトリの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウから複数の LDAP ディレクトリを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての LDAP ディレクトリを削除できます。

手順

ステップ 1 P.15-2 の「LDAP ディレクトリの検索」の手順を使用して、削除する LDAP ディレクトリを検索します。

ステップ 2 削除する LDAP ディレクトリの名前をクリックします。

選択した LDAP ディレクトリが表示されます。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ウィンドウの表示が更新され、LDAP ディレクトリがデータベースから削除されます。

追加情報

P.15-8 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.15-1\)](#)
- [LDAP ディレクトリの検索 \(P.15-2\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.15-3\)](#)
- [LDAP ディレクトリの削除 \(P.15-7\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP システムの設定 \(P.14-1\)](#)
- [LDAP 認証の設定 \(P.16-1\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.105-1\)](#)
- [エンド ユーザの設定 \(P.106-1\)](#)